
小人の靴屋

吉野ヶ里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小人の靴屋

【Nコード】

N7059K

【作者名】

吉野ヶ里

【あらすじ】

最近が悪夢ばかり見ます。

そんな夢をひとつ取り出してみようと思って書いてみました。死ぬほど暇ならご覧下さい。

(前書き)

あまり良いものではないですよ？
悪夢ですから、よろしければご覧あれ

『小人の靴屋』

1、

夜が怖かった。

私は靴屋を営んでいた。

しかし、この不況だ。

個人経営の靴屋など売れる訳もない。

ただ作った靴だけが店頭に並んでいく。

ある日の事だ。

私は靴の材料と道具を用意してそのまま眠ってしまった。

微睡みの中、トントンと槌を振るう音が聞こえる。

目を細めて見てみるがよくはわからなかった。体はまるで鉛のようで動かない。

私は再び不愉快な微睡みの中にとけていった。

翌朝、二足の靴が枕元に出来上がっていた。

どちらも右足だけ大きい歪で奇妙な形をしている。

こんな靴が売れる訳がない。

私は誰がこんなことをしたのか突き止めてやろうと思った。

その日の夜、私は眠った振りをして犯人が来るのをまつた。

——トントン、トントンと槌を打つ音が聞こえてくる。

犯人の数が増えていることが音の数から推察できた。

私は何故か重たい頭を必死に働かせながら目を開ける。

ベッドの中からは作業を続ける無数の小さな手しか見ることができなかった。

奇妙な手だ。指先が妙に長い、人間ではありえない長さだ。

私は突然怖くなった……

体はやはり鉛のようで動くことなどできない。

私の記憶はそこで途切れた。

早朝、目を覚ました私が見たものは床に散乱する大量の靴だった。どれもこれも歪で奇妙な形をしている。

昨日の妙な指先が気になって私は今日こそ犯人の正体を確認してやろうと決意した。

その夜も私の記憶は途中で途切れた。

体がまるで魔法にかかったように重たかったのだ。

次の夜もその次の夜も同じこと……

歪で奇妙な靴だけが家中に増えていく。

遂に私の家は靴で埋めつくされてしまった。

夜が怖かった。

あのトントンという音が聞こえるたびに 私は恐怖に打ち震えるのだ。

また、音が聞こえる――

トントン、トントンとただ無心に槌を振るう音……。

(もう、許してくれ……)

私は目を固く瞑った。

トントン、トントンと音だけが聞こえてくる。

目を瞑っていた影響なのか体はいつものような感覚を感じなかった。

た。

体は動く――

槌を振るう音は永遠の様に続いている。

私は意を決して立ち上がった。

そこにいたのは小人だった。

ただし童話にでてくるような可愛いものではない。

小さな体に不似合いなくらい長い手、奇妙に大きい右足に反比例するかのように左足は小さく潰れたようなよくわからない顔から大きな目玉だけが二つランランと光っていた。

一人、二人、三人……数えればきりがなくくらいの量の小人が私の家に溢れていた。

いや、もしかしたら私の感覚がそう捉えただけでそんなに人数はいなかったのかもしれない。

小人たちが私に向かって槌を降り下ろした。

どこにでもある普通の槌が私の頭を何度も何度も直撃した……

気がつくとは私はまたベッドの上にいた。

まだ夜は明けていないらしく、トントンと槌を打つ音は響いていた。

そこで私は違和感に気がついた。

口が開かないのだ……

そう、私の口が靴ひもで結びつけられていた。

上唇と下唇に穴をあけ上下に器用に結んである。

私はあまりの出来事に動転してしまった。

同時に痛覚が追い付いてくる。

口元に走る痛みは尋常なものではなく私は叫び声を上げた。叫んだ瞬間に私の口が上下に裂けた。

靴ひもが私の口の傷口からだらだらと繋がっている。
声を聞いた小人たちが再び私の回りに集まってきた。
ランランと光る瞳はまっすぐにこちらを見つめている。
私は走り出そうとしたのだが歪な靴の山に足を取られ逃げ出すこ
とはできなかった。

小人たちが再び槌を振り下ろす。

そんな夢を見た。

おわり

（後書き）

以上、悪夢でした。

また新鮮な悪夢を見れば書いていこうと思います。ではでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7059k/>

小人の靴屋

2010年10月11日12時35分発行